

医師・看護師・介護職員の大幅増員を 日本医労連増員闘争ニュース

第 134 号

2011 年 5 月 19 日

日本医労連増員闘争本部

TEL:03-3875-5871

FAX:03-3875-6270



地震、津波、原発事故、風評被害と「四重苦」の中で奮闘する福島の間は、5月14日にナースウェーブを行いました。56名の参加で、復興と医療従事者の大幅増員を訴えました。日本医労連から相澤書記長が、全医労から美馬副委員長と市村中執が応援に駆けつけました。また福島からは、12日の山口のナースウェーブに福厚労の長谷部書記長が参加し、実態報告と支援を訴え、相互の連帯を強めています。

福島県医労連・斎藤富春執行委員長あいさつ要旨

福島県医労連全体の震災被害は、家屋の損壊・流出 27 棟、政府の指示による原発避難 101 名、そして本当に残念ですが津波で 2 名の看護師を失いました。患者の命と安全を守ろうと最後まで奮闘した姿に、誇りを感じています。さらに、自分の家が流されても、職場に泊まり込み病院を守り抜いた仲間。被曝から家族を守るため避難を考えたが、患者さんを置いて自分だけ避難する訳には行かないと職場に残った仲間。第一原発から 3 km の双葉厚生病院では、地震発生で入院患者さんを避難、続いて津波警報、さらに翌日、原発事故による避難指示で自衛隊のヘリコプターに乗るため双葉高校のグラウンドに移動、しかし、ヘリコプターはなかなか来ない。その間に、一号機が水素爆発、そこで患者・職員 90 名が被曝。こういう中でも、患者さん全員を避難させた福厚労の仲間。そして、浜通りの被災された多くの患者さんを受け入れた二本松社会保険病院の仲間。こういう仲間の奮闘に心から敬意を表します。復興をめぐる議論が始まっていますが、あらゆる被害・損害についての全面補償、住民合意での復興計画を求めると同時に、復興を名目にした「震災復興税」「消費税増税」には反対です。同時に、今回の災害で、改めて医療や介護の体制の在り方、地域医療の在り方が問われています。公的病院縮小や医師・看護師を減らすだけの安上りの医療・介護で本当に国民の命を守るのかどうか。今日のナースウェーブで大いに訴えていきましょう！



全医労豊橋医療センター支部は、18日に10名で宣伝、686筆を集約しました（写真下）。組合員10筆目標で396%の達成で10,330筆になっています。自治労連、全大教からも署名が集まり、全体では65万筆に迫る勢いになってきました！！



5.25署名提出国会要請行動せまる！